

# 日口投資フォーラムにおける 松経済産業副大臣ご挨拶案

## 1. はじめに

(ズドラーストイチェ(ロシア語で「こんにちは」の意))

ただいまご紹介にあずかりました経済産業副大臣の松あきらでございます。今回の日口投資フォーラムへは、グレフ経済発展貿易大臣から二階経済産業大臣に対して参加の要請を頂いたところですが、今般、私が二階大臣の命を受けて参加いたしました。

ここサンクトペテルブルクは、「西欧への窓」として、18世紀初めのピョートル大帝を生みの親とし、その後エカテリーナ2世を中興の祖として築かれた都市と聞いております。また、大帝は東方へも関心を示され、ここサンクトペテルブルクに日本語学校の前進を作られたと聞いております。このような地で開催される今回のフォーラムにおいて、日口政財界を代表する皆様方のご参加を得て、両国間の投資拡大に向け忌憚のない議論を行うことは、大変有意義なことであります。このフォーラムが日口経済関係の更なる拡大につながり、日口間の信頼感を一層高めていくための起爆剤になると確信しております。

本日は、日口経済の現状及び今後の関係強化に向けた取組について考えを述べさせていただきます。

## 2 . 近年の日口経済について

近年の日口貿易関係は急速に拡大しております。2002年の貿易総額は約42億ドルでしたが、2004年に約88億ドルと倍増し、昨年には100億ドルを突破しました。また、ロシアでのビジネスに関心を示す日本企業も増加し、モスクワ日本商工会の会員企業数は、2004年の66社から2006年の145社へと、直近3年間で倍増しております。こうした両国間における経済関係拡大の大きな要因は、両国の着実な経済成長であると思われれます。

現在、我が国経済は長い停滞期をようやく克服し、民需に支えられた景気回復が続いております。一方、我が国は、ロシアと同様に、継続的に人口が減少する社会となっており、将来の経済成長の制約要因となることが懸念されます。しかしながら、このような状況下でも国富の増大を図る「新しい成長」を実現するため、本年6月、その道筋を示す「新経済成長戦略」を策定しました。

本戦略では、例えば、「世界のイノベーションセンター」として、日本から新商品・新技術を世界に発信、提供し、世界レベルでの「イノベーションと需要の好循環」を創出することを目指しております。こうした取組みを通じて今後 10 年間で実質 GDP において年率 2.2% 以上の成長を目指します。

また、ロシア経済は原油高を背景としたエネルギー資源の輸出拡大により、GDP 成長率が対前年比で 6 ~ 7 % 増で推移するなど極めて好調であり、従来のエネルギー分野のみならず、消費財分野のビジネスに外国企業の関心が高まっております。こうした動きを加速するため、ロシア政府は、経済特区を指定し、税制上の優遇措置を講じ、外資を巻き込みつつ製造業及びハイテク産業の育成を図ることにより、産業構造の高度化に努めていると伺っております。

### 3 . 更なる日口経済関係の強化に向けて

こうした両国それぞれの戦略的な取組を補完し、両国の有するポテンシャルを最大限実現していくため、日口両国は、お互いにもっと協力していくことができるのではないかと考えております。

具体的には、今回のフォーラムのような場を活用して、お互いに関心を有する企業や政府が直接接触する機会を持つことが重要であります。フェイス・ツー・フェイスで意見交換を行うことにより、将来に向けた強い絆の土台を築くことができるでしょう。

また、日口間のビジネスに関する情報提供を進めていくことも重要です。既に日口貿易投資促進機構が、ビジネスに関心を有する企業のデータ・ベースを整備しておりますが、そうした情報の積極的な活用が期待されます。

さらに、透明性の高いルール整備などビジネス環境の改善に努めていくことも重要であります。ビジネスを行う上で法制度の適用・運用などに関する不明確な点が、ビジネストラブルに発展する場合があります。こうしたことにきちんと答えるため、本年1月に二階大臣のイニシアチブで日露双方の政府に苦情相談窓口を設置したところです。こうした取組を通じて、お互いに一つ一つ信頼を積み上げていくことにより、より一層厚みのある経済関係を構築していくことができるでしょう。

#### 4 . まとめ

最後に、日口間の経済関係を拡大・深化させていくためには、本日ここに集いました我々一人一人の努力が重要であります。本日のフォーラムがそうした努力を加速する大きなきっかけとなることを期待いたしまして、私のご挨拶とさせていただきます。

ご静聴ありがとうございました。

( スパシーバ ( ロシア語で「ありがとう」の意 ) )